

先端医療学コース学生顕彰制度「相良賞」

先端医療学推進センター長 本家 孝一

研究は将来の学問に対する投資です。医学生が在学中に修得する知識や技術は過去の遺物です。知識量は年々指数関数的に増加していますので、医師は過去の知識を知るだけでは不十分で、未来の高度医療に対処できる能力をもつことが求められます。



受賞者を囲んで

1年間の研究成果を評価する銀賞を3年生1名(現4年生)と4年生2名(現5年生)が受賞しました。今年度の最初の授業日(平成27年4月13日)に三学年の『先端医療学コース』履修生全員を集めて、相良賞授与式と受賞者による研究発表を行いました。授与式にひきつづき、東京大

『先端医療学コース』では、医学という科学原理の思考と、最先端医療開発研究の実践を通して課題を探求し解決する能力を磨き、主体性とリサーチマインドを涵養(かんよう)いたします。研究を行うには正規のカリキュラム時間だけでは不十分なので、放課後や休日にも研究をしなければならないこともありますが、学生達は頑張って研究しています。その甲斐あって、研究成果を学会で筆頭演者として発表し、優秀演題賞を受賞する学生が出て来ました。

本学でも独自に優秀な学生を顕彰するために、先端医療学推進センターの産みの親である相良祐輔前学長の名を冠した『相良賞』を平成23年度から授与しています。昨年(平成26年)度は、三年間の研究成果を評価する金賞を4年生1名(現5年生)が、学年毎に

学名誉教授・高知大学特任教授・次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラムグループリーダーの清木元治先生に、「臨床への還元を目指したがんの基礎研究」という演題で記念講演をしていただきました。

【写真参照】

将来、地域医療を目指す学生諸君にとっても、科学的思考能力は不可欠



記念講演会

であり、『先端医療学コース』はこれを身につける絶好の機会です。是非、『先端医療学コース』にチャレンジして相良賞をゲットしてください。



相良賞「金賞」を受賞して

医学科5年 重久 立

「え、それはドッキリか何かでしょうか…?」

研究室で松崎先生から結果をお聞きした時に浮かんだ、私の正直な感想です。この度は相良賞金賞という栄えある賞をいただきましたこと、大変光栄に思います。指導して下さった先生方やアドバイスを下さった先輩方や同級生、イラストを提供してくれた後輩。沢山の方々に支えられての結果だと心の底から思っています。本当に有難うございました。

私が所属していたファージ療法研究班では、細菌に感染するウイルスであるバクテリオファージ(以下ファージ)を利用した感染症治療についての研究を行っています。近年、薬剤耐性菌が世界中で問題となっていますが、ファージ療法はそれら薬剤耐性菌に対する切り札として欧米で注目されています。

私は2、3年次にファージの分離方法や構造解析について学び、最終年度にファージと抗菌薬を組み合わせた際の

溶菌効果の変化についての研究を進めました。ファージと抗菌薬を組み合わせた研究は世界でもほとんど例がないため、組み合わせることで生じる現象を一つ一つ整理し、その効果の判定方法を一から独自に考案する必要がありました。しかし、多くの実験と検討を積み重ねることで、どうにかファージと抗菌薬を適切に組み合わせると、ファージの溶菌効果が増強される可能性があることを突き止めることができました。

元々は研究自体にはあまり興味がなく、人生経験と思い先端医療学コースを選択しましたが3年間ですっかりその魅力に取り付かれてしまいました。研究の道からはしばらく離れることとなりますが、将来的には臨床と研究を両立させられる医師になり、世の中の役に立てたら、と思っています。

